

令和4年6月15日

耐候性大型土のう基準検討委員会
委員長
茨城大学 名誉教授 安原 一哉

『「耐候性大型土のう積層工法」設計・施工マニュアル』
耐候性評価方法の変更にもなう留意事項

「耐候性大型土のう積層工法」設計・施工マニュアルは、平成24(2012)年3月に初版を発刊し、その後、改訂版を平成29(2017)年10月に発刊しております。

本マニュアルでは、土のう袋の生地及び吊りベルトの耐候性の評価を、促進耐候性試験(JIS B 7753 ; サンシャインカーボンアーク灯式耐候性試験)で1年を300時間として行っており、3年耐候の長期仮設については900時間の促進試験後の引張強度で評価を行ってまいりました。しかしながら、1年経過後の一部の吊りベルトに破断する事象が起きたことから、マニュアルにおける耐候性の性能評価の考え方について再検討を行い、マニュアル改訂することといたします。

マニュアルの改訂は、令和5年3月を予定しておりますが、それまでの期間は、下記に留意したうえ、耐候性大型土のうのご利用をお願いいたします。

記

1. 使用する際の留意事項

吊りベルトの引張強度の基準値には安全率を含むものの、吊り上げ、及び吊り下げの作業を片吊りで行うと破断するリスクもあるため、2本の吊りベルトで均等に荷重が作用するように留意すること。

2. 耐候性の性能評価と証明書の再発行

(1)性能評価方法

土のうの生地、及び吊りベルトに関する耐候性の性能評価方法については、屋外曝露条件による3か月及び6か月のデータを確認の上、外挿により最大3年間の耐候性能を評価する。

(2)再評価に基づく証明書の再発行

既往の全製品について上記(1)の性能評価方法を実施し、現行の基準値を満足する製品は改めて証明書を発行し、満足しない場合は証明書を破棄します。

以上